

インターネットを介した情報通信技術は、近年著しい発達を遂げている。国民一人ひとりが、自由にインターネットを利用して情報にアクセスできるようになる国も増えていく。その中で、従来の情報発信の基盤であった新聞や雑誌は、その存在価値を失いかけていくように思える。「古い」メディアになりつつある新聞や雑誌は、今後必要なものなのだろうか。

インターネットは新聞や雑誌に優る最大の特徴は、その情報伝達の速さと、双方向性、そしてユーザの情報選択権にあると言える。インターネットを使えば、世界中の情報を、写真や動画も交えてリアルタイムに入手することができる。また、得たニュースに対する自分自身の意見や考えを即座に発信することもできる。さらに、インターネットの利用者は、自分が必要だと思った情報だけを検索して入手できるので、関係のない事柄に手間をかける必要もない。このように、インターネ

ットは、新聞や雑誌の代替になりうる長所をもっている。

しかし一方、新聞や雑誌の方が優る点もあるだろう。これらは有料で手に入るものなので、情報の信頼性が高い。また、幅広い情報を遍く手に入れたい場合は、編集者側で情報の拾捨選択が行われているこれらの方が使いやすいためだろう。そして何より紙に書かれた情報は、人々に信頼と安心感を与える。

このように、それぞれのメディアには、それぞれに長所や特質が存在するために、どちらが優れているとか、どちらが不要だとかいうことは、一概には言えない。インターネットの登場の価値は、それが従来のメディアに替わるものだという点だけではなく、ユーザ側のメディア選択の際に、新たな選択肢を与えたという点である。どちらのメディアも社会的に重要で今後も存続させていくべきである。むしろどのような場面でのメディアを選択するか、という点を考えていくべきだ。